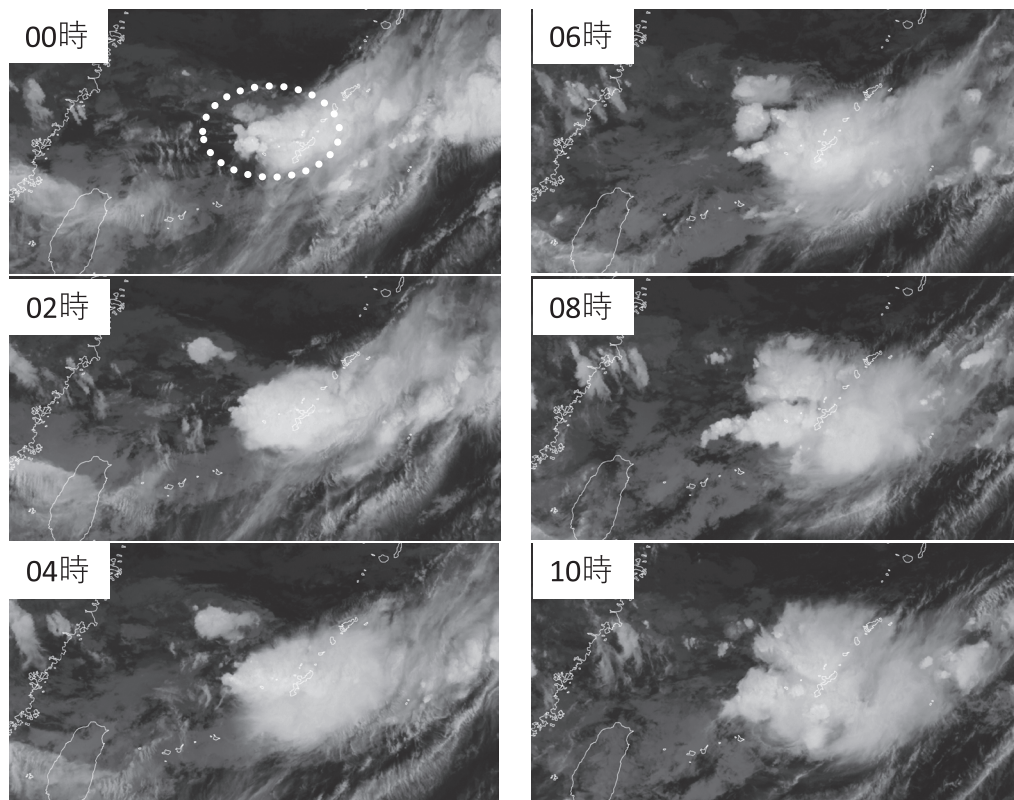




今月のひまわり画像—2021年6月

沖縄本島地方に大雨をもたらした線状降水帯



第1図 2021年6月29日00時～10時（日本時間）の2時間毎の沖縄地方付近における赤外画像。00時の画像における点線楕円内に一段と白く輝く雲域が見られる（本文参照）。

前線に流れ込む暖かく湿った空気の影響で、沖縄地方では、2021年6月28日夜（日本時間）からほぼ同じ所に活発な対流雲が発生して沖縄本島付近にかり続けた。29日未明には、積乱雲が列をなして線状に延びる「線状降水帯」がみられ、大雨となった。第1図は、29日00時から10時の2時間毎の沖縄地方付近における赤外画像である。組織化した積乱雲群が沖縄本島付近を次々と通過しており、その中に一段と白く輝く雲域が、長さ約50～60km、幅は約10kmの列となっているのが確認できる（00時の画像における点線楕円内）。

この発達した対流雲域により、沖縄本島地方では短い時間で集中的に大雨が降り、名護市宮里では29日02時までの1時間に71.5mmを観測し、6月の1位の値を更新した。また、粟国空港では29日04時までの6時

間に252.5mmもの雨が降り、「50年に1度」の記録的な大雨となった。このため、沖縄本島各地では、29日にかけての雨の影響で土砂災害や冠水が発生し、道路の通行止めなど影響が出た。この雨に対し気象庁は、29日02時49分、「顕著な大雨に関する情報」を沖縄本島地方に発表した。

「顕著な大雨に関する情報」は、6月17日から提供を開始したもので、線状降水帯とみられる降水域が確認され、土砂災害や洪水災害の危険度が急激に高まっている場合に発表する。この情報が発表されたら、市町村の避難情報やキキクル（危険度分布）等を確認し、適切な避難行動につなげて欲しい。

（気象庁大気海洋部予報課 河野麻由可）